

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表日：令和5年2月6日

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
環境・ 体制整備	1		8	0	国の定めた基準以上の広さを確保し、スペースは利用児童の特性に応じて適切に配置・利用しております。 また、必要に応じてレイアウトの変更等を適宜おこない、配慮を必要とする利用児童に対しては、職員で話し合い、改善や工夫をおこなっております。	
	2		8	0	国の定める配置基準では、事業所に児童発達支援管理責任者・管理者を1名以上配置、児童10名までに職員2名を配置、それ以上児童が利用する際には、児童5名につき職員を1名ずつ増員するというものになっております。 また、専門性の高いサービスの提供のため専門職も配置しております。	
	3		8	0	各活動場所には、その場所がわかりやすいようにイラストをつけております。 教室内は、ほぼフラットな状態ですが、玄関先に段差があるため、その場所には注意喚起するための貼り紙や職員による声掛けなどで転倒防止につとめております。	
業務改善	4		8	0	その日の勤務の職員が揃う時間に業務連絡、療育内容の確認など話し合いの場を設けております。 また、月2回リフレクション会議を実施し、支援の改善点、療育の計画などすべての職員が情報を共有できるようはかっております。	
	5		8	0	年に一度アンケート調査を実施し、集計内容を職員間で共有しながら今後の支援につなげております。 保護者様から頂いた貴重なご意見やご要望に対しては真摯に受け止め、今後の改善に役立てております。	
	6		8	0	COMPASS 発達支援センター公式Web サイトにて公開しております。	今後も公式Webサイトで公開してまいります。
	7		0	8	現時点では第三者評価は実施できておりません。	第三者による外部評価については今後の課題として検討してまいります。
	8		8	0	年間計画に沿った定期的な研修を実施し、職員の資質向上の機会を確保しております。 本所作成動画の視聴研修やオンライン研修、その他ケース会議などで勉強会を継続し、コロナ収束後は外部研修にも積極的に参加いたします。	
	9		8	0	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	
	10		8	0	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	
	11		8	0	活動プログラムの立案をチームで行っている	
適切な 支援の 提供	12		8	0	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	
	13		8	0	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	
	14		8	0	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	
	15		8	0	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	
	16		8	0	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	
	17		8	0	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	
	18		8	0	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	
	19		8	0	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	
	20		8	0	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	
	21		8	0	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	
関係機 関や保 護者との 連携	22		0	8	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	事業所は重症心身障害以外の児童が対象となっていることもあり、今後受け入れ希望があった場合は、慎重に検討し、受け入れ体制・事業所のあり方について模索してまいります。
	23		8	0	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	
	24		0	8	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	今後該当する児童がある場合、当事業所での支援内容等を関係機関に伝え、情報共有してまいります。
	25		0	8	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	今後適切なアドバイスや研修が受けられるようにしてまいります。
	26		0	8	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	新型コロナウイルス収束後、地域の現状に合わせた形態でおこなってまいります。
	27		8	0	（地域自立支援）協議会等積極的に参加している	
	28		8	0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	
	29		8	0	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	
保護者への 説明責任等	30		8	0	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	
	31		8	0	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	
	32		0	8	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	保護者より開催のご希望がありますが、感染予防の観点より新型コロナウイルス収束後実施してまいります。 それまでは、職員が機軸し役となるよう情報の発信につとめてまいります。
	33		8	0	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	
	34		8	0	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	
	35		8	0	個人情報に十分注意している	
	36		8	0	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	
	37		0	8	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	今後も利用児童の安全を第一に考え慎重に対応させていただきます。可能な範囲での受け組みを検討してまいります。
非常時 等の対応	38		8	0	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	
	39		8	0	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	
	40		8	0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	
	41		8	0	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	もしやむを得ず身体拘束をしなければならない状況があったとしても十分な配慮や短時間でおこなうこととし、その際の記録はきちんと残し、保護者様には丁寧な説明を行い、実態の検証につとめて「身体拘束をおこなわない姿勢」へと繋げるようにつとめてまいります。
	42		8	0	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	
43		8	0	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		